

足利の家 —大屋根がそれぞれの居場所を包み込む家—



ダイニングはテラスを介して西の庭と繋がるキッズスペースやキッチンからも庭が眺められる



リビングの周囲をリボンを巻く様に配した回遊動線。引戸を開くとひとつつながりのスペースとなる



天井高に変化を付けながらも見逃せる室内庭との関係性を重視しながらそれぞれのスペースを配置した

1. まちとつながる庭と住まい

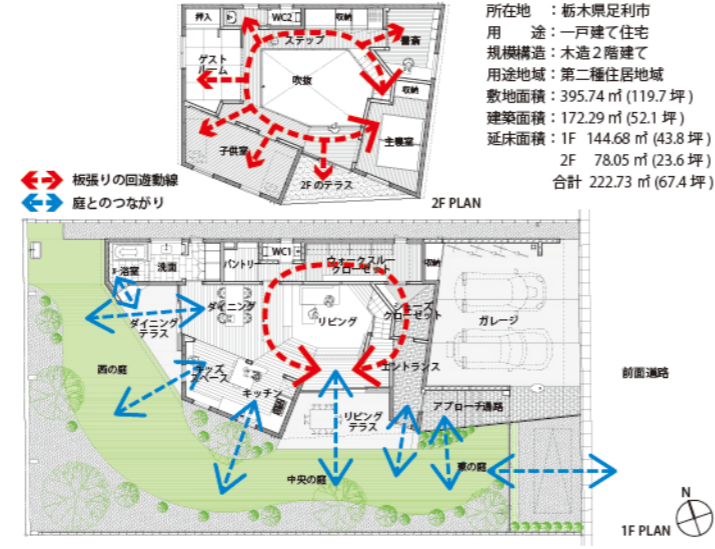
敷地は「東の京都」、「北の鎌倉」と言われる栃木県足利市にあり、歴史の香り漂う街並みや史跡（足利学校・鏡阿寺等）が多く残っている。南には関東平野が広がり周囲は里山に囲まれ、とうとうと渡良瀬川が流れるのどかな街である。そんな周辺環境になじむ様に庭や住まいが閉鎖的にならず、積極的にまちとつながる様に配慮した。ガレージとアプローチ通路は建物と構造的に一体となった一枚の屋根を架け、通りに対して縁の様な役割を持たせた。



道路側外観 / まちと繋がる庭と縁としての屋根

2. 庭とつながるそれぞれのスペース

建物を敷地の中央に配置し、3方向に空けた場所にできる庭と内部空間を繋ぎながら生活の場を作っていくと考えた。東の庭とつながるアプローチとエントランス、中央の庭とつながるリビングとキッチン・リビングテラス、西の庭とつながるダイニングとキッズスペース・浴室。眺める庭や遊ぶ庭、園芸を楽しむ庭、家庭菜園の庭など内部空間との関係性を考えながら、育てられていく予定である。



3. 吹抜けのリビングを取り巻く回遊動線

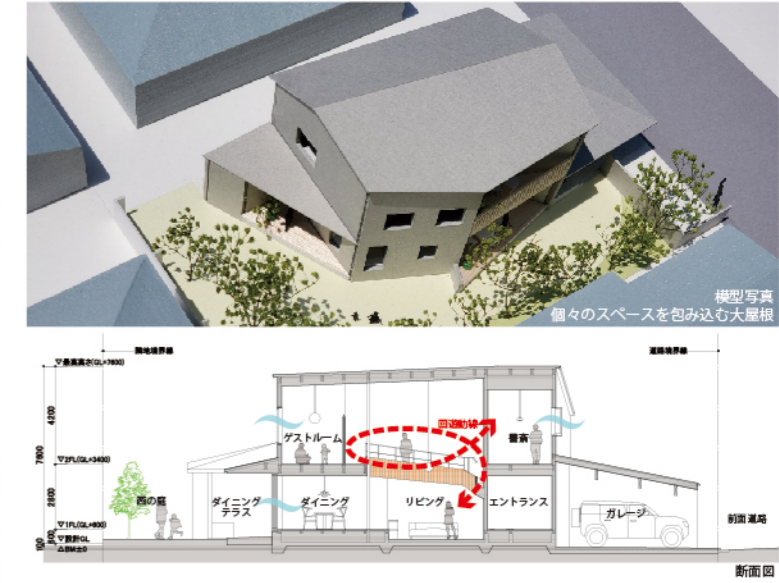
1階ではエントランスから直接アプローチするメイン動線とは別に家族のクローゼットを通りダイニングに通じるファミリー動線を設けている。また、吹抜けのあるリビングの周囲をリボンを巻くようにして、1階から2階までの個々のスペースをゆるやかにつなぐように回遊動線を設けた。回遊動線の壁は板張りとして他の珪藻土の白い壁と対比させ、デザイン的に強調させた。個性を持たせた個々のスペースをつなぎ、建物全体がダイナミックにつながる様にした。



1階から2階へ板張りの回遊動線が続く

4. 個々のスペースを包み込む大屋根

1Fのリビング、中2階の書斎、2階のゲストルームや子供室などの個々のスペースを包み込む大屋根とし、それぞれの場で程良い高さになるように屋根勾配を決定した。大屋根は、建築主の要望である北欧の田舎家のようなおらかな造りをイメージし、天井の仕上げは白い壁と対比させて羽目板張りとした。



模型写真 個々のスペースを包み込む大屋根

断面図